

2024 年度 関私教協 第 5 回幹事校会議事録

1. 日時：2024 年 8 月 26 日（月）18:30～20:00

2. 形態：オンライン会議

3. 出席者：

【幹事】高瀬 幸恵（桜美林大学・事務局長）、岡田 佳子（芝浦工業大学・事務局次長）、
山下 暁子（青山学院大学）、黒住 早紀子（駒澤大学）、青木 研作（東京成徳大学）、
大家 まゆみ、河野 誠哉（東京女子大学）、黒沢 学（東京電機大学）、
木之下 健一、須藤 和代（目白大学）、五十嵐 清子〔白石 一徳代理〕（文化学園大学）、
森田 満夫（立教大学）、斎藤 遼太郎（茨城キリスト教大学）、
北村 篤司、横澤田 朋美（昭和音楽大学）、小澤 真紀（芝浦工業大学）、
古橋 真紀子（東京成徳短期大学）

【事務担当】岩井 瑞恵（桜美林大学）

【オブザーバー】大室 さおり、山口 賢（芝浦工業大学）、黒岩 友見子（桜美林大学）

4. 2024 年度第 4 回幹事校会議事録の確認

高瀬事務局長より、第 4 回幹事校会議事録（案）が示され、これを承認した。

5. 2024 年度臨時総会議事録の確認

高瀬事務局長より、臨時総会議事録（案）が示され、これを承認した。

6. 協議

【報告事項】

（1）研究部の活動について

- ・第 1 部会：第 1 回研究部会の参加者は 23 名（対面 10 名、オンライン 13 名）であった。部会長は城西大学の柴沼先生が担当される。教育実習や学校体験活動の現状と課題をテーマとして研究を行う予定である。
- ・第 2 部会：第 1 回研究部会の参加者は 10 名（対面 4 名、オンライン 6 名）程度であった。部会長と副部会長は引き続き、芝浦工業大学の奥田先生、立正大学の岡田先生が担当される。教職課程の学生の支援についてのアンケート調査を検討する。次回の部会は 9/11 に実施する予定である。
- ・第 3 部会：第 1 回研究部会の参加者は 20 名（対面 11 名、オンライン 9 名）であった。部会長と副部会長は引き続き、清和大学の小松先生、神奈川工科大学の田辺先生が担当される。教員採用の早期化・複線化、カリキュラム改変などをテーマとして研究を行う。次回は 9/26 にオンラインで実施する予定である。第 8 部会との統合の提案について情報が共有された。
- ・第 4 部会：第 1 回研究部会の参加者は 6 名（対面 4 名、オンライン 2 名）であった。部会長は引き続き、帝京短期大学の黒田先生が担当される。今後の部会の日程は、10/12、1/25、3/15 の予定である。研究課題は、昨年度に引き続き「実習について」で、今年度は特に短大生の実習における実習日誌の形式について情報交換や議論を行うことに決定した。
また、部会員の学校の現状について（幼稚園教諭教職課程、中学校・高等学校教諭家庭科教職課程、栄養教諭教職課程それぞれについて）情報交換した。また、認証評価基準変更に向けて改善しようとしている点についても情報交換した。
- ・第 5 部会：第 1 回研究部会の参加者は 16 名（対面 8 名、オンライン 8 名）であった。部会長と副部会長は、麗澤大学の久保先生、杏林大学の渡辺先生が担当される。教員採用の易化傾向について検討する。採用担当者を情報提供者として招き、採用の側と養成の側との対話を進めたい。
- ・第 6 部会：第 1 回研究部会の参加者は 9 名（対面 2 名、オンライン 7 名）であった。部会長と

副部会長は引き続き、明治学院大学の岡明先生、流通経済大学の鈴木先生が担当される。今年度は、昨年度作成したアンケート調査の報告書の内容分析を行うとともに、介護等体験のアンケート調査項目の検討を行う。介護等体験のアンケート調査は 2025 年度に実施する計画である。次回の部会は 9/12 に実施予定。

- ・第 7 部会：7/18（木）18:30～ハイフレックスで部会を開催した。上野裕之さん（工学院大学（非））が『『探求』を草の根から広げてきた実践報告』をタイトルとして報告を行った。参加者は 6 名（対面 3 名、オンライン 3 名）であった。次回の部会は、9/19（木）17:30～「東京都市大学の教職課程」について報告を受ける予定である。
- ・第 8 部会：第 1 回研究部会の参加者は 11 名（対面 4 名、オンライン 7 名）であった。部会長と副部会長は引き続き、東京女子大学の竹内先生、立教大学の森田先生が担当される。第 8 部会の創設のあらましについて説明があった。本年度は、本部会の成果と課題を話し合い、第 3 部会との統合の是非について検討する。次回の部会では、継承すべき成果と課題について話し合うこととなった。
- ・千葉・茨城地域：7/24（水）13:30～17:00 に定期総会および第 1 回研究会をハイブリッド方式にて開催した。24 大学中 17 大学・32 名が出席した。研究会のテーマは外国にルーツのある子どもの教育についてであった。2 月に第 2 回の研究会を実施する予定である。
- ・神奈川・山梨地域：特になし。
- ・北部地域：10/24 にオンラインで第 1 回研究会を実施する予定である。

(2) 広報部の活動について

- ・北村広報部長より、資料に基づき『会報』第 96 号の編集スケジュールが示され、進捗状況について説明があった。

(3) 2024 年度臨時総会、研究部総会、第 1 回研究部会の報告について

- ・高瀬事務局長より、資料に基づき参加数等について報告があった。臨時総会は 79 大学、研究部総会は 117 名（対面 47 名、オンライン 71 名）、第 1 回研究部会は 103 名（対面 46 名、オンライン 57 名）の参加であった。

(4) 阪神地区との連絡について

- ・高瀬事務局長より、資料に基づき阪神地区との情報共有について報告があった。

【審議事項】

(1) 2024 年度研究懇話会について

- ・青木研究部長より、12 月 14 日（土）開催の研究懇話会の企画について説明があった。会場は工学院大学（新宿キャンパス）の予定である。テーマは、関私教協の歩みを振り返り、これからの研究活動・情報交換・連絡協議のあり方について検討するような内容にしたい旨の説明があった。また、他地区協議会がどのような活動を行っているかといったことを参考にしながら協議したいという提案もあった。この企画について承認した。

(2) 次期幹事校へのアプローチについて

- ・高瀬事務局長より、2025-2026 年度に新規に幹事校を担う大学について相談があった。資料に基づき、東京 A 地区から 1 校、東京 B 地区から 1 校、東京 C 地区から 2 校を選出する必要があることが確認され、候補となる大学の検討を行った。今年度で任期を終える幹事より候補大学にアプローチをする。なお、神奈川・山梨地域についても 1 校選出する必要があるが、すでに桐蔭横浜大学で確定している。これらのことについて承認した。

(3) 臨時総会出席校数の訂正について

- ・高瀬事務局長より、臨時総会における出席校数の集計に誤りがあったことが報告された。臨時総会の資格審査報告では、「委任状 72 校、総会出席 85 校、合計 157 校となり、全会員校の過半数を超えていますので、関私教協 会則第 7 条により総会は成立しました」との報告をしたが、85 校は出席申し込み数であったことが後に判明した。実際には、欠席や資格審査報告後に遅れて出席した大学が 6 大学あり、出席は 79 校であった。正しくは、「委任状 72 校、総会出席 79 校、合計 151 校」であった。全会員校の過半数を超えており、総会の成立には変更がないことが確認された。このことについて会員校宛てに訂正・お詫びのメールを発

信したうえで、ホームページには訂正した臨時総会議事録を掲載することが提案された。これについて承認した。

【配付資料】

資料１：『会報』第96号編集スケジュール

資料２：2024年度 臨時総会、研究部総会、第1回研究部会開催報告

資料３：全私教協会費値上げに対する地区の反応について

資料４：関私教協会員校及び年次別幹事校担当状況

以上